

一 般 演 題

1. ^{99m}Tc 標識リン酸化合物による脳シンチグラムの経験

三宅 幾男 久山 秀幸
武本 本久 石光 宏
鈴木 健二 松本 皓
(岡山大・脳外)

骨シンチグラムを目的として開発された ^{99m}Tc ピロリン酸 (ピロリン酸と略す) を脳腫瘍症例に使用し、さらに従来から使用されている ^{99m}Tc -pertechnetate (pertechnetate と略す) と併用することにより、診断率の向上を図ることを目的として行なった。

過去1年間に、脳腫瘍、頭蓋骨疾患、脳血管閉塞等の42症例にピロリン酸及び pertechnetate によるシンチグラムを施行した。その結果、脳腫瘍症例についてみると、glioma 例でピロリン酸と pertechnetate を比較すると、pertechnetateの方が、より明瞭な abnormal uptake を示し、診断上優れているようである。しかし反応性骨増殖を伴った meningioma 例では、ピロリン酸の使用により、より明瞭な abnormal uptake がみられた。

今後さらに症例を重ね、検討していく予定である。

2. 脳槽シンチグラムの臨床的検討

○楠原 俊明 横内 和往
五味 巖
(坂田回虫病院〈院長藤原憲和〉・放)
桑山 充文 青柳 実
梅林 義彦
(同・脳外)

95例の脳神経外科的症例を対象として Gamma-camera による、R.I. Cisternogram を検討した。髄液循環動態の3つの要素、産生、通過、吸収に

関連して、吸収障害、ブロック、脳室内逆流現象について、各疾患別に検討した。各疾患におけるこれら3障害の合併発生頻度は、かなり特徴的なパターンをとり、髄液循環動態障害の、発生のメカニズムを示唆するものと考察される。

脊髄レベルでの興味ある所見として、髄液腔ブロックを有し、R.I. の頭蓋内への移行が高度に障害されているにもかかわらず、経時的にクリアされる症例を得た。これは生理的吸収装置 (傍矢状野パキオニ氏吸収装置) 以外の吸収、つまり代償性吸収 (パキオニ外吸収) が active に効果することを示唆するものと考えられる。

3. 閉塞性脳血管障害に対する血行再建術前後の局所脳循環動態について

久山 秀幸 三宅 幾男
植田 清隆 有光 哲雄
西本 詮
(岡山大・脳外)

閉塞性脳血管障害11例における浅側頭動脈中大脳動脈皮質枝吻合術前後の局所脳循環動態について検討した。方法としては、 ^{133}Xe を用いた局所脳血流 (rCBF) 測定および ^{99m}Tc - O_4^- による早期連続 RI-angiography を施行し、両者の結果を合わせて検討した。術前の rCBF は全例ともに低値を示したが、このうち手術効果のみられたものは、rCBF が 25 ml/100 g/min. 以上の9例で、手術効果のみられなかったものは、rCBF が 20 ml/100 g/min. 以下の1例と、術後吻合部の閉塞をみた1例の計2例であった。術後の rCBF は、手術効果のみられた症例においても有意の増加とはいえなかったが、RI-angiography では、術後、虚血部位に外頸動脈系からの血流が増加したと考えられる所見が得られ、明らかな局所脳循環動態の変化がうかがわれた。以上より、本検査法は閉塞性脳